

**特集** ハイパフォーマンススポーツを対象とした医・科学支援  
——ハイパフォーマンス・サポート事業の活動を例に

特集の趣旨

The purpose of the feature issue

窪康之<sup>1)</sup>

Yasuyuki Kubo<sup>1)</sup>

本特集は、日本スポーツ振興センターがスポーツ庁から受託して実施したハイパフォーマンス・サポート事業（HPS 事業）に関連して編まれたものである。

HPS 事業は、スポーツ庁の定めるターゲット種目のアスリートが、オリンピック・パラリンピック競技会においてより多くのメダルを獲得できるよう、スポーツ医・科学、情報の各側面からサポートすることを目的とした事業である。この目的を達成するため、HPS 事業では、トレーニング、ケア（東京大会以降はセラピーという語を用いることになっている）、心理、栄養、生理・生化学、映像・バイオメカニクスを専門とするサポートスタッフを競技団体からの要望に応じて配置し、強化の課題に応じてサポート活動を実施してきた。サポートの内容を決めたり具体的に進めたりする上では、国立スポーツ科学センター（JISS）の研究員と専門職員が、JISS が蓄積してきたスポーツ医・科学、情報の各種知見に基づきアドバイスをしたり、必要に応じて協働したりする体制をとった。

本特集は、これまでの5年間、HPS 事業が最重要競技会のひとつとして位置づけていた東京2020 オリンピック・パラリンピック競技会（東

京大会）が終了したことを一区切りとして、東京大会に向けて HPS 事業のサポートスタッフが実施してきた活動の一部を報告するものである。サポート対象となるアスリートが世界一を狙うわずか数名の、一般的なトレーニング理論が適用しにくいレベルにある方々であること、取り扱うデータがトレーニングや競技会の場で得たものであり質・量ともに十分でなく比較対象も限られていることなどから、個々の報告は学術的文書としての要件を十分に満たしているとは言い難いかもしれない。しかしこのことは、世界一を狙うアスリートを支える活動、すなわちハイパフォーマンス・サポートにおいては避けることのできない制約である。この制約を前提としつつも、できるだけ多くの情報を基にして報告を蓄積すること以外にハイパフォーマンス・サポートの質を向上させる手段はない。このような考え方を踏まえ、報告者には、アスリートを取り巻く個別の背景と課題、サポートを実施する上での理論的基礎、サポートの効果をできるだけ詳細に記述することを求め、次に続くサポートスタッフが一連のサポートプロセスを批判的に検証できるような執筆に努めていただいた。

報告の内容は、ともすれば他国を利用して次の世

<sup>1)</sup>国立スポーツ科学センターハイパフォーマンス・サポート事業統括マネージャー

<sup>1)</sup> General manager of High Performance Support Project in Japan Institute of Sports Sciences

E-mail : yasuyuki.kubo@jpnssport.go.jp

代の日本代表選手の成績を脅かす可能性がある。しかしそれよりも、サポートのプロセスを具に公開して様々な議論を呼ぶことの方が、今後のより強力なサポートにつながるのではないかと期待する。

以上の趣旨を、サポート対象となったアスリート、コーチなど競技団体の方々、そして事業の委託元であるスポーツ庁関係各位にご理解いただいたことにより本特集の企画が可能となった。ここに記して感謝いたします。